

陸上競技

30歳、**山口 浩勢**さん
(森岡)



プロフィール

城西大学出身、愛三工業陸上競技部所属。全日本実業団対抗駅伝競争大会には7年連続1区で出場するなど、長距離走・障害走で活躍。東京2020オリンピック 陸上男子3,000m障害に出場も果たした。

東京2020オリンピックに出場し、時の人となった山口選手。オリンピックに出場するまでの道のりを聞いてみた。

陸上をはじめたきっかけは中学校の部活動選び。希望していた部は廃部となり、仕方なく第3希望の陸上部に入部した。最初は走り幅跳びをやっていたが、なかなか結果が出ない。そこで、他の種目にもチャレンジする中で、長距離と出会う。陸上をはじめたときは県大会レベルの成績だったが、努力が実を結び、次第に全国の舞台に立てるようになった。

1番つらかったときを聞いてみると、昨年の日本選手権前だったという。年齢的なこともあり、新しいことを模索していた時期だった。

「標高3000mの酸素濃度に設定した部屋でトレーニングを始めたのですが、毎回やめたくなるほど過酷でした。でも、大会で結果を出すために乗り越えました」と話す。

過酷な練習をどうやって乗り越えたのか。「家族とライバルの存在を心の支えにしていました」と振り返る。「妻が3人の育児を頑張っていたり、チームメイトでケニア人のケモイ選手が世界で活躍する姿を見たりすると、自分も頑張らなければと奮い立ちました」。常に世界大会を目標にしていたが、毎回あと数秒というところで標準記録に届かず、悔しい思いをしてきた。

ついに、今年の日本選手権でオリンピック参加標準記録を突破し、オリンピック出場権を手にした。突破したときの気持ちを聞くと「やっと」と笑う。

最後に皆さんへのメッセージをもらった。「自分は才能があったわけではないですが、オリンピック出場を果たしました。夢や目標を諦めずにチャレンジし続けてほしいです」。次の目標は2022年の世界陸上。参加標準記録突破を目指す。

